

本居宣長

2018 年追試

問 1 日本の神話を研究した本居宣長が、古代の精神を解明するうえで最も重視し、その注釈書を著した書物として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

20

- ① 『古事記』
- ② 『日本書紀』
- ③ 『風土記』
- ④ 『古史通』

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 3 問	問 1	20	①	2

2017 年追試

問 6 人間を万物のうちで最も貴い存在と考える儒学を批判した人物に賀茂真淵がいる。次の文章は、彼の思想とその影響についての説明である。[a] ~ [c] に入れる語句の組合せとして正しいものを、下の①~⑧のうちから一つ選べ。 [25]

賀茂真淵は、[a] をはじめとした日本の古典のうちに、人間の理想的な姿があるとした。真淵によれば、^{いにしえ}古には人々に理屈めいたところがなかったで、天地に即した道が自然と存在し、国は治まっていた。真淵は、特に [a] に見いだされた [b] の歌風に、古の精神が表れているとした。鳥獣は、古のままで今も変わることなく生きている。一方、人間は自らの知恵で争ううち、理屈めいた中国の流儀に ^な馴染んでいったため、国は乱れ、[b] の歌風も失われた。ゆえに、真淵は知恵をもつ人間こそ万物のなかで最も悪い存在だと考えた。真淵の研究は、本居宣長に影響を与えた。宣長は古典に記された神々の事跡のなかに、人間の理想的なあり方を読み取った。宣長はそれを人間の生まれつきの心である [c] に基づく道と考え、当時盛んに行われていた儒学を作り事の道として批判した。

- | | | | | | | |
|---|---|---------|---|--------|---|-----|
| ① | a | 『万葉集』 | b | たをやめぶり | c | 真 心 |
| ② | a | 『万葉集』 | b | たをやめぶり | c | 良 知 |
| ③ | a | 『万葉集』 | b | ますらをぶり | c | 真 心 |
| ④ | a | 『万葉集』 | b | ますらをぶり | c | 良 知 |
| ⑤ | a | 『古今和歌集』 | b | たをやめぶり | c | 真 心 |
| ⑥ | a | 『古今和歌集』 | b | たをやめぶり | c | 良 知 |
| ⑦ | a | 『古今和歌集』 | b | ますらをぶり | c | 真 心 |
| ⑧ | a | 『古今和歌集』 | b | ますらをぶり | c | 良 知 |

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 3 問	問 6	25	③	3

2016 年本試

問 6 国学者である本居宣長もまた、「^{うれ}嬉しがるべきことは嬉しく、悲しがるべきことは悲しく」思うことを重視しているが、その思想は儒学者とは異なるものであった。宣長による儒学批判の内容として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

25

- ① 嬉しく思うべきこと、悲しく思うべきことの内実は、日本と中国とで異なるので、互いに尊重し合うべきなのに、儒学の教えがその差異に気づかず、己の感性のみを基準としているのは、横暴である。
- ② 何を嬉しく思い、何を悲しく思うかは一人一人違い、また同じ人でも時によって違うので、その時々^の感情のまま振る舞うべきなのに、儒学の教えが一律に道理で捉えようとしているのは、的外れである。
- ③ 嬉しいことを嬉しく思い、悲しいことを悲しく思うのは、事柄に相応して感情が動く人間本来のあり方なのに、儒学の教えが何事にも道理を先立て、^{みだ}妄りに心を動かさないよう説いているのは、うわべを飾る偽りである。
- ④ 人間は善事に励むことを嬉しく思い、悪事に手を染めることを悲しく思うよう生まれついているのに、儒学の教えが感情を適切に発動するよう説いているのは、誰もが既にしていることを教えとした空論である。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 3 問	問 6	25	③	3

2016 年追試

問 5 次の本居宣長の文章を読み、その内容の説明として最も適切なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 24

まづ大かた人は、言^{ことば}と事^{わざ}と心^{こころ}と、そのさま大抵相かなひて、似たる物にて、たとへば……男は、思ふ心も、いふ言も、なす事も、男のさまあり、女は、思ふ心も、いふ言も、なす事も、女のさまあり。されば時代時代の差別*も、又これらのごとくにて、心も言も事も、上代の方は、上代のさま、中古の方は、中古のさま、後世の方は、後世のさま^{あり}て、おのおのそのいへる言となせる事と、思へる心と、相かなひて似たる物なるを、今の世に^{あり}て、その上代の方の、言をも事をも心をも、考へしらんとするに、そのいへりし言は、歌に伝はり、なせりし事は、史^{ふみ}**に伝はれるを、その史も、言を^{もつ}て記したれば、言の外ならず、心のさまも、又歌にて知るべし。

(『うひ山ぶみ』より)

*差別：違い

**史：ここでは『古事記』『日本書紀』の二書を指す

- ① 人の心や言葉、振る舞いは、それぞれ互いに相通じ合うものであり、古^{いにしえ}より伝わる歌や史書の言葉は、古代の人々の心や振る舞いを明らかにするものとなる。
- ② 言葉は時代ごとにそれぞれ異なったものであるように、人の心や振る舞いも、時代によって異なっている以上、古代の人々の心を知ることにはおのずと限界がある。
- ③ 古代の人々と同じ気持ちになることによって、昔から伝わる歌や史書の言葉が明らかになるのは、本来、人の心や振る舞いが、言葉と一致するからである。
- ④ 男女の間では、言葉の違いに関わりなく心が互いに通い合うように、古代の人々と今の人々との間においても心は通い合い、ひいては古代の言葉や振る舞いも理解できるようになる。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第3問	問5	24	①	3

2015 年追試

問 6 篤胤が反駁しようとしたのは、「尊きも賤しきも善きも悪きも、死ぬればみな此〔いな醜き〕夜見国に往ことぞ」といった主張であった。こうした主張を唱え、自らの半生を『古事記』の文献学的研究に捧げた人物として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 25

- ① 荷田春満
- ② 賀茂真淵
- ③ 本居宣長
- ④ 塙保己一

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 3 問	問 6	25	③	2

2012 年本試

問3 本居宣長が死の受け止め方について述べた次の文章を読み、その内容の説明として最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 15

神道の安心は、人は死に^{きうら}候へば善人も悪人もおしなべて、みな黄泉国へゆくことに^{きうらふ}候。善人としてよき所へ生まれ候ことはなく候。これ古書の趣にて明らかに候なり。……さて、その黄泉国は、きたなくあしき所に候へども、死ぬれば必ず行かねばならぬことに候故に、この世に死するほど悲しきことは候はぬ也。しかるに、儒や仏は、さばかり^{いたり}至て悲しきことを、悲しむまじきことのやうに、色々と理屈を申すは、真実の道にあらざること、明らけく候なり。

(本居宣長『鈴屋^{すずのや} 答問録』より)

- ① 死は人間にとって如何^{いかん}ともし難い不可避の出来事であり、死後は黄泉国へと赴くほかはないのだから、いざという時にうろたえることのないように日ごろから心の修養に努めることのうちにこそ安心はあり、いたずらに死を悲しむべきではない。
- ② 死は人間にとって如何ともし難い不可避の出来事であり、死後は黄泉国へと赴くほかはないが、黄泉国での禍福はこの世の生き方によって決まるのだから、死を悲しまず、この世で善行に努め、死後の安楽を目指すことのうちにこそ安心はある。
- ③ 死は人間にとって如何ともし難い不可避の出来事であり、死後は黄泉国へと赴くほかはないが、この世の生き方にこそ意味があるのだから、死を悲しむことなくこの世でできる限り安楽に生きることのうちにこそ安心はある。
- ④ 死は人間にとって如何ともし難い不可避の出来事であり、死後は黄泉国へと赴くほかはないのだから、そのように心得ることのうちにこそ安心はあり、根拠のない恣意^{しゆい}的な説によって、いたずらに死の悲しみを克服しようとするべきではない。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第3問	問3	15	④	3

2012 年追試

問 7 本居宣長について説明した文章として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。

19

- ① 儒教や仏教を批判的に受容し，漢意に従った日本人の生き方を明らかにしようとした。彼が説いた「からくにぶり」とは、『古今和歌集』などにみられる，理知に富んだ歌風と心のあり方のことである。
- ② 古代の和歌や物語を読解し，真心に従った日本人の生き方を明らかにしようとした。彼が説いた「もののあはれ」を知る心とは，世の様々なことに出会い，それらの趣を感受して「あはれ」と思う心のことである。
- ③ 『古事記』を読解し，そこに描かれている神々の事跡から，人間の普遍的な生き方としての道を見いだした。その道は惟神の道とも呼ばれ，儒教や仏教と同じく，神々に従って素直に生きる身の処し方であった。
- ④ 『古事記』を読解し，そこに描かれている神々の事跡から，日本人の生き方としての惟神の道を見いだした。惟神の道は古道とも呼ばれ，もはや実現不可能な，古代日本人に特有の理想的な生き方であった。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 3 問	問 7	19	②	3

2011 年本試

問 1 文章中の **14** に入る語句として正しいものを、次のそれぞれの①～④のうちから一つずつ選べ。

本居宣長は、「よくもあしくも」生まれつきの真心こそが「道」と主張し、儒学の教えがその真心を抑圧し、偽りをもたらしていると批判した。そして、真心の回復のために、**14** を排して日本の古典を読むという学問の必要性を説いた。

- ① 情 欲 ② 執 着 ③ 漢 意 ④ 自 尊

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 3 問	問 1	14	③	2

2007 年 追 試

問 6 本居宣長についての説明として**適当でないもの**を、次の①～④のうちから一つ選べ。

18

- ① 『古事記』のイザナキ（イザナギ）・イザナミ神話に示されているように、人間は死ねば必ず汚い黄泉^{よみ}の国に行くとした。
- ② 『源氏物語』の光源氏はただの好色者ではなく、「もののあはれ」を知り、人間に深く通じた者であるとした。
- ③ 死に際しても動揺せず澄んだ心でいるためには、『古事記』を読んで、死後の靈魂のゆくえを知ることが必要であるとした。
- ④ よい歌を詠むためには、『源氏物語』を読んで、人間の心の微妙な動きを深く知ることが必要であるとした。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 3 問	問 6	18	③	3

2005 年本試

問 1 文章中の 19 に入れるのに最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ
選べ。 19

儒学に対抗して、神話や歌・物語の中に人や世界のあり方を探ろうとした国学は、そこに描かれた男女の恋に重要な意義を見いだしていった。本居宣長は『19』において、恋に揺れ動く人の姿のうちに、「もののあはれを知る」という人の真実のありようを認めたのである。

- ① 万葉代匠記 ② 歌意考
③ 源氏物語玉の小櫛 ④ 古道大意

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 3 問	問 1	19	③	2

2004 年本試

問 5 日常を新たに捉え直す思想を抱いた人々のうち、井原西鶴と本居宣長の考えとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選べ。井原西鶴については に、本居宣長については に答えよ。

- ① 現実の世界は抽象的な理では捉えきれない、生き生きと生成する一大活物^{かつぶつ}である。日常的な行為や心情も活物としての人間の働きであり、その中に条理がある。
- ② この世は「憂き世」ではなく、「浮き世」である。眼前の日常生活の中で、日々様々な快樂や富を追求するところにこそ、人間の生のありのままの姿がある。
- ③ 日常的な欲望や感情は、「やむを得ざる」自然なものであり、朱子学のように否定的に見てはならない。日常にかかわる道を行うことで、優れた治者たりうる。
- ④ 人間は、日常的な人間関係において愛敬の心を働かせている。それが普遍的な「孝」である。「孝」は人間関係のみならず、万事万物を貫いている道理でもある。
- ⑤ 日常生活において、物事に触れたときに生じる、楽しい、悲しい、恋しい、憎いなどの感嘆こそ本来的な心の働きである。人間は感嘆によって物事の本質を知る。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 3 問	問 5	25	②	3
第 3 問	問 5	26	⑤	3

2004 年 追試

問 1 文章中の 20 に入れるのに正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

20

本居宣長は生涯をかけて『20』を著し、「^{かん}惟^{ながら}神の道」が日本古代に実在したと主張して、日本に固有な人の在り方を説いた。

- ① 万葉代匠記 ② 古事記伝 ③ 弁道 ④ 翁問答

問 4 平田篤胤に関する説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 24

- ① 古道の研究を、特に歌論の中に展開し、「ますらをぶり」に日本的心情の典型を見いだして、そこにおける「高く直き心」を理想とした。
- ② 仏教・儒教・神道の教えをそのまま受け取るのではなく、教えの成立過程から、それぞれの思想史上の意義を相対的に見ることを説いた。
- ③ 功名や利欲を離れた純粋な心情に徹して、己の誠を尽くせば天道と一体になると説き、幕末の志士たちに勤皇の精神を強調した。
- ④ 古来の神道の姿を求めて、復古神道を提唱し、現実の生の背後にある死後の靈魂の行方を論じて、その教えは民間にも広まった。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 3 問	問 1	20	②	2
第 3 問	問 4	24	④	3

2003 年追試

問 3 本居宣長の主張として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。

24

- ① 日本人は，古代の純粋な神道信仰に復帰し，天皇への服従に基づく民族意識に目覚めなければならない。
- ② 日本人は，素朴な高く直き心をもって暮らしていた古代の自然の道を回復しなければならない。
- ③ 日本人は，無名の人々の文字によらない暮らしや考え方の中に，日本文化を見いださなければならない。
- ④ 日本人は，仏教や儒学が入って来る以前の教えなき時代のあるがままの世界を知らなければならない。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 3 問	問 3	24	④	3

2001 年本試

問 5 死生について本居宣長は、次のように述べている。この文に述べられている死生の考え方の記述として最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。

25

神道の安心というものは、人は死ねば善人も悪人もおしなべて、みな黄泉国^{よみのくに}へ行くと考えるところにある。善人だからといって善い所へ生まれることはない。……その黄泉国は、きたなくあしき所であるが、死ねば必ず行かねばならないので、この世の中に死ぬことほど悲しいことはないのである。それなのに儒教や仏教はそれほど悲しいことを悲しむ必要のないように色々と理屈を述べている。それらが真実の道でないことはその点から見ても明らかである。

(本居宣長『鈴屋^{すずのや} 答問録』より現代語訳)

- ① 生きているものは必ず死ななければならないものである。とすれば、せめて生きているうちは死を忘れて楽しく生きるべきである。
- ② 現世での行いによって死後の世界が決定されるということはない。そのことをしっかり受け止め、いつわりの救済の道に走ってはならない。
- ③ 死後、安楽の世界におもむくためには、現世で何かしらの修行が必要である。しかしそれは、仏教や儒教とはまったく異なったものである。
- ④ 生と死の間に明確な区別はなく、現世の延長として死の世界はある。したがって、死を厭^{いと}うことなく自然に受容することこそ重要である。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 3 問	問 5	25	②	3

2000 年追試

問 5 文中の に入れるのに最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

真淵の強調した「益荒男振」も手放しの男性中心主義ではないんだよ。それに人間と鳥や虫との区別も相対的なものだとして、あるがままの自然全体の中に人間を位置づけ、人間をか弱い存在だと見る柔軟な見方もあるんだ。それを受けて、次の宣長になると、「もののあはれを知る」という を重視するようになったんだと思うよ。

- ① 男女の悲哀をものごとの中に読みとる態度
- ② 他者やものごとにこまやかに共感する態度
- ③ 抽象的な思考を排し自己の内部の情緒に深く沈潜する態度
- ④ 古典を味わうことを生活の指針として重視する態度

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 4 問	問 5	27	②	3